

議 事 録

作成年月日

2010年10月21日

| | | | |
|--------------|--|-----|----------|
| 日 時 | 2010年10月16日(土) 11:00~17:00 | 作成者 | 承認 |
| 場 所 | 富士見区民会館 | 柳沢 | 白木・納見・平山 |
| 出席者 (敬称略) | 白木緑(会長)、納見謙一、平山晃(以上副会長)、川野岳大(ACP Representative 補佐)、武藤俊雄、鈴木賢一、鈴木政弘(代理)、高橋昌司、妻神邦昭、金山之治、小松平孝弘、尾澤千恵子、岡田一、岩本力、堀米弘孝(以上理事) 以上、議決権保有者 ＊オダックスランドヌール中部代表は欠席(議決権は会長に委任) 加藤孝、井出和之(以上理事・議決権なし) 片桐恭弘(会計監査)、泉浩司、山口哲生(以上幹事)、井手マヤ、本多海太郎、埴谷繁、坂東司、稲川浩、永利理恵、津村明彦、打木寛文、川田日出夫(以上傍聴人)、柳沢宏和(議事録作成) | | |
| 議 題 | 1. 新規クラブの承認とクラブ代表の理事就任の承認 2. BRM 主催クラブの増加について 3. BRM のコース設定について 4. 2009 収支報告と2010 中間報告・2011 会員募集・2011PBP について 5. その他 BRM の運営・ルールについて | | |

<議事内容>

1. 新規クラブの承認とクラブ代表の理事就任の承認

下記の2つのクラブの新規設立と、クラブ代表のAJ理事就任を承認するか(会長)。

- ・ヴェロクラブ ランドヌール青葉(Velo Club Randonneurs Aoba) = 代表:加藤孝/副代表:津村明彦
- ・AJ 西東京(Audax Randonneurs Nishi Tokyo) = 代表:井出和之/副代表:埴谷繁

→上記2クラブの新設と代表のAJ理事就任に反対意見はなく、ヴェロクラブ ランドヌール青葉、AJ 西東京の新規設立と、加藤氏、井出氏のAJ理事就任が承認された。

→AJ 神奈川の副代表が空席となったため、AJ 神奈川副代表の選任と会長への報告が必要。

2. BRM 主催クラブの増加について

今回新しく2つのクラブが誕生したが、どちらも神奈川周辺を中心に活動するクラブである。これを機会に、既存の主催クラブから独立して新規クラブが設立されることで、BRM の主催クラブが特定地域に偏在することについて再考して欲しい(会長)。

- ・今回、AJ 神奈川から新しく2つのクラブが独立した理由について、改めて説明して欲しい(会長)。
- ・今年はAJ 神奈川として主催するBRM の回数が多く、その結果、リザルト作成など事務作業でAj 神奈川代表にかかる負担が大きかった。それを分散させるために AJ 神奈川からクラブを分けた(井手)。
- ・逆にクラブが増えることに問題はあるのか。事務作業にかかる負担は、結局は AJ か主催クラブのいずれかが

負担しなければならないのだから、どちらが負担するかが問題であって、クラブが増えることが問題なのではないのでは(加藤)。

- ・クラブが増加することは歓迎するし、それによって AJ の事務作業が増えるのは仕方ない。しかし、今回のように同じクラブから枝分かれして増えていくのでは事務作業量が増えるだけである。また、主催クラブが特定地域に偏在すると、AJ の理事を特定地域的主催者だけで占めてしまうことになり、好ましくない(会長)。
- ・BRM の開催数・参加人数の増加に伴う事故や、事故によるクラブ代表の負担が増大している。それを分散させることも、AJ 神奈川から枝分かれして新規クラブを独立させた理由の一つである(本多)。
- ・各クラブの代表ばかりが責任や作業を抱えるのではなく、各 BRM の担当者が主催者として責任を取ることはできないのか。また、既存クラブから枝分かれして新規にクラブを発足させるのではなく、同じクラブ内で独立して BRM 開催、運営する方法はないのか(会長)。
- ・主催クラブや主催者が増えるのは参加者が分散するので好ましいが、事務作業を取りまとめる負担は増える。しかし、主催クラブ内で複数のグループが独立して BRM を開催・運営することは可能である。現に、A 埼玉では 2 つのグループが同日に BRM をそれぞれ開催することで、参加者の分散の効果を上げている(妻神)。
- ・クラブ数が増えることは問題なのか。AJ が取りまとめる主催クラブの数を増加させずに、BRM の主催者数を増やすには、地域ごとにブロック化して階層を増やさざるを得ない。しかし、組織はシンプルであるべきで、階層を増やすこと反対である(加藤)。
- ・主催クラブが増加することで HP など BRM の情報が分散するので、BRM 参加者にしてみれば不便になる(山口)。
- ・AJ 北海道が BRM を主催する地域は広範囲で、各地で活動する(AJ 北海道内の)主催グループを独立した主催クラブに分けることも検討したが、現状、分けずに BRM を主催・運営することができている(武藤)。
- ・AJ 理事会の ML で配信される事務関連の連絡事項などを、主催クラブ内で作業を担当するメンバー全員に周知徹底するのが難しく、結果的に AJ の事務負担を増やしている面もある。もちろん、クラブ代表のやり方次第で改善できるが(高橋)。
- ・参加者が多くて主催クラブの負担が大きいのであれば、参加人数の制限などにより身の丈にあった BRM 運営にすればよいのでは(堀米)
- ・そのような努力は各クラブとも行っているが、主催クラブの許容量を遥かに超える参加者数であり、現実には厳しい(会長)。
- ・主催クラブの代表にかかる作業管理の負担については、代表の努力だけで解決することは難しい(金山)。
- ・BRM の認定作業にともなう事務作業の負担が主催クラブ・AJ 双方にとって負担し切れないのであれば外注を検討するなどし、新規クラブの増加と事務作業の負担の問題とを切り分けないと、議論は進まないのでは(井手)。
- ・AJ 北海道では、以前は事務作業を代表だけが行い、大きな負担となっていた。その負担を軽減するため、リザルト作成担当を決め、BRM 主催担当とリザルト作成担当が 2 重にチェックをしたデータを代表が最終チェックして AJ に提出する方法に改めている。当初から円滑に進んだ訳ではなく、リザルト作成担当へのレクチャーや、担当者の習熟により、現在では代表の負担は大きく軽減するようになった(武藤)。
- ・単純にクラブを分割するのではなく、主催クラブの中で、新たに BRM の主催者となる人を育てる重要性を再認識して欲しい(泉)。
- ・新規クラブの増加に関して、議論が事務作業ばかりに偏っている。現状、クラブ代表=AJ 理事であるが、後 2 つクラブができれば、クラブ数が AJ 理事の定員数を超過するので AJ 理事を選出しなければならなくなる。そ

の際、地域のバランスを考慮して理事を選出すべきであり、理事が特定地域に偏るのは問題である。そのような観点からも議論を進めるべき(柳沢)。

- 主催者の事務負担を減らすために AJ の事務負担が増えるのであれば、結局議論はまとまらない。その点を考慮して議論を進めないといけない(尾澤)。
- 主催団体の増加について考慮すべきポイントを確認しておきたい。一つは、主催者責任と理事会での議決権がリンクしているべきこと。AJ の意思決定に関与できないのに責任のみ負わされるのは不当である。したがって今後、主催クラブ数が増加していった場合、理事の定員数の問題が再燃する恐れがある。これは技術的な方法では解決しないと思われる。効率性や責任者の作業量の面からは主催クラブの規模が大きすぎてもよくないが、継続性や主催担当者の養成などの面からはあまり小さすぎてもよくない。望ましい主催クラブ像について議論していくべきではないか。(鈴木賢)
- この問題については継続的に考えていって欲しい。ある地域で複数のクラブができた場合、見ず知らずの間柄ではなく、BRM など互いに顔を合わせる関係な訳で、そのような関係の中で AJ の理事を選出するなど、複数のクラブが自発的にまとまりを持つような関係を考えて欲しい。また、AJ 理事については、保険担当理事、SE 担当理事など、理事に作業と責任を分担してもらうように変えていきたい(会長)。

3. BRM のコース設定について

コースに関しては主催者を尊重し、申請書類のチェック段階でもコースそのものに関しては干渉しないようにと、これまで担当者に指示してきた。今後もその方針に変わりはない。ただ、将来の日本のブルベを考えて、BRM 中の仮眠ポイントやコースのきつきについて、主催者の間で一度話し合っただけ(会長)。

- まず 600km の BRM における仮眠の重要性や仮眠するポイントについて、意見を出して欲しい(納見)。
- 07 年の 600 の 360km 付近のバンガローを借りて仮眠ポイントを作った。また、400 の有人 PC を仮眠ポイントとしたことがある。仮眠ポイントを設けると、多くの参加者が利用する(小松平)。
- 今年の 600 で 24 時間出入り自由の素泊まりのロッジを借りて仮眠所とした。利用者は多く、風呂に入れるなど参加者から好評だった(加藤)。
- A 埼玉の場合、ある程度の距離で健康ランドなどの近くを通るようにコースを設定している(納見)。
- 朝スタートの 600 の場合、仮眠するポイントが 400km 付近だと遠過ぎて、仮眠ポイントに着く前に眠くなってしまふ。色々試した結果、最近では 350km 前後に仮眠ポイントがあるように設定している。寝ないで走り続ける人もいるが、仮眠ポイントを設けるとそこで寝る人も多いため、極力仮眠ポイントを設けた方がよい(泉)。
- AJ 宇都宮と R 宮城との共催の 600 では、互いの折り返し地点に仮眠所を設けている。しかし、スタートから 300km 足らずということもあるのか、利用しない人も少なくない(鈴木政)。
- BRM のコースについては、主催者の自由である。しかし、BRM は特定の人だけが完走できればよいというものではない。一部の人しか完走できないものではない。きついコースを作るなら、平易なコースも作って両方実施すること。コースのきつきが年々エスカレートしているのは問題がある(会長)。
- 仮眠ポイントにすら辿り着けないきついコースや、峠のピークに PC があってタイムアウトしてしまうコースなどについては、問題があると感じる(妻神)。
- AJ 北海道でも、意図的ではなく、以前に比べて 200 や 300 の BRM の難易度が上がっていた。そこで、来年

はコースを見直すよう心がけた(武藤)。

- ・このままコースがきつくなり続ければ、高齢の参加者や、年に数回しか BRM 走らない参加者は完走できず、BRM から弾き出されるようになってしまう(会長)。
- ・獲得標高や交通量など、BRM 初心者でもコースの難易度が分かる指標があってもいいのでは(本多)。
- ・それは無理だろう。同じコースでも、スタート時刻や気象条件が変われば完走の難易度は大きく変わってしまう(会長)。
- ・そのような指標については、出したい主催者が出せばよいのでは(川野)。
- ・AJ 宇都宮のコースは登りが多くてきついと言われるが、平地主体のコースだと地図読みが難しいなどの問題も出る。また、明らかな BRM 初心者には、事前にメールを送るなどしてフォローもしている(鈴木政)。
- ・AJ 宇都宮の場合、PBP1200km の獲得標高をもとに、400km や 600km の獲得標高の目安を設定している。春までに開催される 200 や 300 は気候的に峠に行けないので平地がメインのコースとなる。一方、夏に開催する 200 や 300 については峠がメインのコースとし、難易度を変えたコースを設定している(鈴木政)。
- ・峠を含んだコースでも、峠を下ったところに PC を設定すれば上りの遅さを下りで挽回できるが、峠のピークに PC を設定されたら、登りが遅い人は挽回の機会がなくタイムアウトしてしまう。これでは脚切のための PC ではないか。きついコースと言っても、完走させることが前提のコースと完走させないコースとでは全く異なる(妻神)。
- ・確かに峠のピークに PC を設けるとクローズ時間がきついが、峠のピークから下って先に進むかどうかを判断するポイントとして、峠のピークの PC もありではないか(鈴木政)。
- ・全国で統一的に、初心者でも分かるようなコースの難易度を表す指標を出すのは難しい。北海道の場合、スタッフ以外で BRM の経験のある人が走行会などを企画しているので、そこに参加した BRM 初心者には BRM の基本知識などを教えるよい機会となっている。こうした活動によってもスタッフの負担が軽減される(武藤)。
- ・BRM に興味はあるが、一番短くても 200km の BRM には出るのには腰が引ける人に対して、走行会などを企画して BRM 初心者向けの活動をしている人も九州にはいる(岩本)。
- ・コースの難易度を指標化したとしても、スポーツエントリーの案内だけ見て、とにかくエントリーしまくる人もいる。実際、今年の自分がそうであった(井出)。
- ・BRM に関する経験の乏しい初心者に対しては、事前に送付するメールに記載の試走レポートなどでフォローするようにしている(鈴木政)。
- ・主催クラブの HP 書いたコース紹介などを読まずにエントリーした後で、不安なのか「完走できるでしょうか」といったメールを送ってくる人もいる(岡田)。
- ・BRM に初めて参加する人はきついコースは避けてエントリーする傾向がある。結果的に、やさしいというイメージのある主催クラブの BRM に初めての人たちが集中してしまう。経験者が多い BRM と初心者が多い BRM とでは、初心者が多い BRM の方が主催者の負担は大きい。一部のクラブにしわ寄せが行っている現状を認識して欲しい。また、何かあってもそれに対応して完走することで経験値が上がっていく。小さなトラブルひとつでも時間制限でリタイヤでは経験値は上がらないことを、主催者側が再考すべき(会長)。
- ・現実にそのような一部のクラブの BRM に初心者が集中する傾向はあるのか(坂東)。
- ・ある(会長)。
- ・きついコースは絶対に駄目ということではない。フランスでも、獲得標高の多いコースを設定し、その代わり PC のクローズ時間の計算速度を低く設定したブルベを通常の BRM とは別カテゴリーとして行っている。そういった BRM と別枠できついブルベを日本で独自に設けるのは構わないが、BRM は一部の走力の高い人しか完走

できないようなものではない(会長)。

- PC の位置や参加者への告知など運営について工夫すべきことはある。ただ、難易度の高いコースについては参加条件を設けている。もちろん、初心者向けに間口を広げていくことも考えていきたい(鈴木政)。
- 走力のある人すなわち経験値の高い人ではない。BRM の経験を積みなければ経験値は上がらない。主催者は、参加者が自分で考えて走り、経験を積める余地を残しておかなければならない(会長)。
- 話は戻るが、600 の BRM で仮眠の問題を取り上げたのは、眠いのを我慢して走り続けるのが BRM だと参加者に勘違いして欲しくないからである。そのためには、参加者がビジネスホテルや健康ランドなど仮眠場所を探したときに、仮眠場所を見つけられるようにコースを作らなくてはならない。いくら自己責任とは言え、そもそもビジネスホテルや健康ランドなどの宿泊施設が沿道にないコースでは、参加者が事前にいくら調べても適切な仮眠場所を見つけることはできない(会長)。
- 北海道 1,200 では、参加者が仮眠をするのに利用した施設で、他の利用者とのトラブルがあった。1,200km を超えるような距離の BRM で、主催者が仮眠場所を手配するのは難しいので、ビジネスホテルなどの宿泊施設のある街を幹線道路で繋ぐようなコースとして、仮眠場所は参加者が手配するようなコース設計を考えたい(武藤)。
- 夜は交通量が減るので、幹線道路を使用して仮眠場所の近くを通すコース設計はいいと思う。ただ、健康ランドやビジネスホテルだと料金の割に滞在時間が短いことを嫌って利用しない人もいるので、ロッジなどの施設を主催者が予約できるといいと思う(泉)。
- 主催者が仮眠場所を手配する場合に、BRM 当日の天候などによって仮眠場所の利用者数が大きく違ってくるので、人数読みが難しい面もある(武藤)。
- コンビニの前で仮眠して、警察から職務質問を受けた参加者もいる(高橋)。
- A 埼玉の BRM でもコンビニ店長から注意を受けたことがあった。駐輪マナーなど PC のコンビニの利用では気をつけなくてはいけないこともある(納見)。
- PC のコンビニの利用マナーでは、水を大きなペットボトルで買ってみんなで使い回したのだが、まだ中身が残っているペットボトルがコンビニの前に放置されてしまっていたことがあった(武藤)。
- AJ 千葉のブルベでは、コンビニの PC の駐車場をカップ麺の汁で汚した参加者がいて、お店側から厳しく指摘を受けたことがある(高橋)。
- PC のコンビニの利用マナーについては、初参加者の多い 200km や 300km の BRM の際に、参加者に対して啓蒙していくことが重要(会長)。

4. 2009 収支報告と 2010 中間報告・2011 会員募集・2011PBP について

- 会長より 2009 年の AJ の収支報告と、2010 年の中間報告があった。
 - 2011 年の AJ 保険の内容は現状維持。ただし保険料は上がる可能性あり。それにより来年の年会費が決定。
 - 2011PBP の日本人参加者枠については現時点で ACP より連絡なし。
-
- 2011 年の AJ 会員の加入する保険の内容は今年と同じで代理店と話を進めているが、保険料が若干上がる可能性がある。したがって、AJ の入会金、AJ 非会員にかかるスポット保険料が上がるかも知れない(会長)。
 - AJ の入会手続きについては例年通り 11 月から、来年の BRM の参加申し込みは 12 月から受け付けられるよ

うスポーツエントリーと作業を進めている(会長)。

- ・ 来年の BRM の参加申し込みの受付準備では各主催クラブから資料を提出してもらおう。主催者サイトにあるフォーマットに必要事項を記入して提出のこと(会長)。
- ・ スポーツエントリーを使用しない主催クラブについては、その旨を連絡すること(会長)。
- ・ 今年は A 埼玉の BRM でもやったように、エントリー受付時期を 12 月からではなく、BRM 毎に設定することもできる。ただし、受付開始のタイミングは毎月第 1 月曜日に揃えることとする。エントリーの開始時期を BRM 毎に設定する場合も連絡すること(会長)。
- ・ 来年の PBP について、日本人参加者枠が何人になるのか、ACP からの連絡はまだない。しかし、12 月には国内の仮エントリーの受付を開始したい。主催者枠の使用に関わらず、主催者も仮エントリーはしてもらおう(会長)。
- ・ 仮に仮エントリーの人数が参加者枠を上回った場合、1 月に公開で抽選を行う。結果については個別にメールで通知する(会長)。
- ・ 前回の PBP で ACP より、日本人参加者の現地連絡者を置くようにと言われたが、それについては国内の旅行代理店と交渉中である。同時に、往復のチケット、ホテル、ドロップバッグのプランを代理店と交渉中である(会長)。
- ・ 自分でホテルを手配して参加した人が、PBP 期間中に不要な荷物を預かってもらえるようなサービスは考えているか(坂東)。
- ・ そのようなサービスは考えていない。各自工夫すること(会長)。

5. その他 BRM の運営・ルールについて

- ・ PC 以外の私設エイドの禁止や、スタッフが PC 以外で給水などのサポートを行ってはいけないことを再確認して欲しい(泉)。
 - ・ BRM はノーサポートが原則。サポートを受けていいのは PC のみ。PC 以外でサポートを受けるのは失格に値する。今年、A 埼玉や AJ 神奈川のブルベで私設エイドを設けた人がいる。事前に特定の参加者と約束した訳ではないからといって、私設エイドが認められるものではない。PC 以外でサポート行為を行われると、他の道路利用者に迷惑をかけるなど問題が生じるので、BRM を長期的に継続していくためにも PC 以外でのサポート行為は認められない。確かに、PBP では沿道に私設エイドがたくさん出ているが、PBP 自体が警察の先導でスタートするなど、通常の BRM の運営とは大きくかけ離れた 4 年に 1 回のお祭り。PBP を基準に考えてはいけない(会長)
 - ・ 400km 以上の BRM で義務化されているヘルメットに装着する尾灯であるが、不要ではないか。この義務化を止めて、車体本体につける尾灯を 2 つ以上に義務化した方がよいのではないか(武藤)。
 - ・ ヘルメットに装着する尾灯は後ろから目立つので必要ではないか(多数意見)。
- 採決の結果、本提案については却下。現状のまま。
- ・ 後続の車両から目立たないような位置や角度で尾灯が設置されている参加者も散見されるので、スタッフが気がついたら、都度指摘してあげた方がよい(柳沢)。
 - ・ 反射ベストなど反射材の着用義務について、反射タスキはあまり目立たないので、反射タスキは認めず、反射

ベストの着用を義務にしてはどうか(加藤)。

- 2011PBP のレギュレーションでは、反射タスキは反射材として認められない(会長)。
 - 反射ベストに比べ、反射タスキは目立ちにくいのは事実(多数意見)。
 - 年に1、2回しかBRMに参加しない人にしてみれば、反射タスキの方が安価で入手しやすいので、反射ベストの義務化に抵抗があるのではないか(尾澤)。
 - 地方では都市部に比べ、自転車用の反射ベストの入手が難しい。将来的には反射ベストの着用を義務化するとしても、経過措置として現状のままでよいのではないか(鈴木賢)。
- 採決の結果、本提案は却下。現状のまま。
- 反射タスキを認めず、反射ベストの着用を義務化した主催クラブは、ローカル・ルールとして実施することは可能である。ただし、その場合は早めに目立つように主催クラブのHPで告知すること(会長)。
 - 以前にAJ理事会のMLに対して、AJ千葉よりDHバーの使用の禁止について質問があった後、その件についてはAJ千葉内で議論をするとなったことがあったが、その議論の結果がどうなったかを教えて欲しい(柳沢)。
 - DHバーが装着されたバイクしか持っておらず、DHバーを取り外すとワイヤリングをし直さないといけないという参加者もいる。また、ACPでもDHバーを禁止しているのはPBPだけのようにあり、またAJでもDHバーの使用を禁止していない以上、AJ千葉独自にDHバーを禁止することはしないことになった(高橋)。
 - 参加者の増大に伴い、時差スタートを実施するクラブが増えている。実際にBRMに参加して走ってみると、1分や5分の時差スタートでは有効性は感じられない。また、時差スタートに伴い、主催者がカウントダウンをして参加者をスタートさせるクラブもあるが、BRMはレースやタイムトライアルであるかのように参加者に誤解されかねない。時差スタートをするなら、そのやり方に注意をしないといけないのではないか(柳沢)。
 - スタートは参加者の自由意思で行わないといけない。主催者が時計通りに参加者を一斉にスタートさせるのは駄目。スタッフがブルベカードに出走のサインをしたら、参加者自身の判断・責任でスタートするようにさせること(会長)。
 - 一斉スタートをすると、行政からBRMがレースだと認識される可能性がある。そうすると、BRMを開催するのに道路使用許可を取らなくてはならなくなるが、実際問題として取れない可能性がでてきてしまう(納見)。
 - スタッフ認定はBRM当日スタッフをやるためBRM本番を走れない人が認定をとるためのものである。したがって、BRM当日にスタッフをやらない人が試走をして認定をとることは認められない(会長)。
 - BRM中に交通違反を犯す参加者がいた場合、即失格や次回以降のBRM参加禁止などの処置を取ることは構わないのか(堀米)。
 - 交通違反やレギュレーション違反は問題であるが、参加者に対してルール厳守について啓蒙を図ることも重要。違反を見つけ次第、即厳罰とするのではなく、違反を見つけたら、まずは注意して守らせるようにすること(会長)。
 - 夜間走行の際、尾灯を点滅させて走る参加者が散見されるが、点灯することを徹底させた方がよい(津村)。
 - 尾灯の点滅は後続の車両に対して、眩しかったり眠気を誘ったりするので、尾灯は点滅ではなく点灯させるこ

とを徹底した方がよい(多数意見)。

- 自転車雑誌のイベントカレンダーに BRM の日程を掲載してもらうので、原稿を作成を各主催者をお願いする(山口)。

以上、17:00 閉会